

小樽市の活性化や改革は市民団体の協力協同はもちろんだが、市役所の果たす役割を強く感じてきた。前回の統一地方選で選任された新市長の手腕に期待したが、一向に小樽市の活性化や改革についての動きが感じられない。

市民の中から「この人を」という動きが見られない中、市民の願いを実現するために自ら「その先頭に立とう」という気持ちが強くなり、来年の市長選を目指して「明るく元気なみんなの小樽をつくる会」を6月23日に発足した。

来年4月の統一地方選を目途に活動を開始したところ、7月4日に現市長が辞任し、再選挙になったことは、とても残念な結果だ。

準備期間も無い中、8月26日の市長選挙に立候補するかどうか迷った。

しかし小樽市の改革には、一刻の猶予もないという結論に至り、本日の立候補記者発表に至った。

今回の急な市長選については、本当に大義のない市長選だと思っている。

これまで辞職勧告決議が採択されても市長の職責を務めるという立場だったはずの市長が、突然8か月を残して辞任し再選挙を行うのは理解できない。

批判を受けて辞職をするなら、出馬しなければ良いだけの話だ。

それでなければ任期を全うするのが責任ある市長の取るべき態度だった。

市長選が行われることになった以上、今回の市長選では小樽をどのように改革し、活性化していくのか、そして未来の子どもたちへ引き継いでいくのか、政策とその実現可能性及び実行力が問われなければならない。

今般の市長選にあたって、市民から様々な意見をもらった。まだまだ不十分だが、『小樽市政9（救策）』を作成した。

いくつかの重要と思われる内容を、この場を借りて話をしたい。

もとより市民の幸せが一番だが、その実現のために何が必要かということでは、その政策の中身が問われていると思う。

多くの市民が感じている人口減少問題で、それが喫緊の課題であることには異論がない。

その対策として若者の雇用確保、子育て環境の改善、安心できる医療体制、住みやすく安全安心なまちづくりなど、様々なことが考えられる。

その中で、私は、若者の雇用確保を視野に入れながら、経済産業の活性化が第一に必要なのではないかと

考える。

とりわけ観光産業の拡大は、十分可能性のある課題だ。

観光産業は主要産業の付属のように見られがちだが、決してそうではない。

観光に来て、楽しんで、心を癒され、大きな満足を得られたなら、それは人々の活力となるはずだ。

重要な位置付けにある観光産業が、小樽では必ずしも政策の優先順位が高くなかったのではないかと感じている。

例えば、公衆トイレはあまりきれいではない。主要なトイレにはオストメイトも設置すべきだ。人工肛門の方は外見からはわからないが、思ったよりも多いと聞いている。

車椅子の場合は外見からわかるが、人工肛門の方はなかなかわからないという現状がある。

歩道なども歩きやすく、キャスターの付いたカバンを運びやすいものに改良する必要があると感じている。

先人が残してくれた様々な遺産、例えば市内各所に残る石蔵の活用など、その可能性は相当大きいと考える。

財政的に何ができるのか、今後精査すべきだが、観光産業に注力し、市としてできることは全力で行い、市民や関係各団体とも緊密に連絡調整・対話を含む協議など行っていくべきと考える。

例えば、土産物に占める小樽製品の割合を多くしていくことなどが重要だ。

そのことにより、中小企業が元気になり、大きな波及効果が期待できる。

観光の周遊性を高めることも、今後の小樽観光のヒントになるのではないかと。

任期中に1千万人の観光客に来てもらうことを数値目標にしたい。

このほか、農水産業といった一次産業の継承や活性化、水産加工業などをはじめとする

中小企業の振興策、中小企業の誘致策、商店街の活性化など、これまで市が蓄積してきたノウハウや進み具合などを検証しながら、新しい取り組みも含めて検討したい。

市民の生活と安全を守るということも大切な課題だ。

冬期の除排雪。これは自分が住んでいる望洋台の雪が多いのでよくわかる。

住民は本当に苦しんでいると思う。

降雪が多いときは、予算をオーバーしてでも除排雪の強化を検討したい。

子育て世代からは小樽の公園の満足度が低いという声があった。

これは気が付かなかった。自宅の近くにある望洋台の公園は立派に見えたが、お母さん方には、必ずしも満足度の高いものではなかった。とりわけトイレが怖いという話があった。

子どもたちを安心して遊ばせられる公園は、子育て世代への訴求力が高い。

小児医療の充実も大切だ。

そのような市民の生活の安全を守る課題にも取り組んでいきたい。

カジノの問題も重要だ。

カジノ実施法が成立し、全国3か所でカジノを含むIRが作られることになった。

小樽市民はきっぱりとカジノ反対の意思表示をしているので、小樽にカジノが来ることはないが、有力な候補地として苫小牧が挙がっている。

苫小牧に来ることも賛成できない。他の自治体に干渉できないが、苫小牧にカジノが来れば小樽から遊びに行く人は明らかであり、ギャンブル依存症に罹る人も考えられる。

カジノは人の不幸の上に成り立っており、経済発展に寄与するどころか本来使われるべき所得が吸い取られるだけだ。

例えばハワイはアメリカでも数少ないカジノの無い州だが、観光で立派に成り立っている。そういう意味でも、小樽市長としてもカジノの反対を言い続けていくべきだと考える。

市民の安心・安全を守る立場の市長として、苫小牧にも北海道にもカジノはいらないと主張したい。

泊原発についても再稼働に反対し、廃炉を求めている。泊から40キロしか離れていない小樽は、福島のような過酷事故が生じたら放射能に汚染される可能性が極めて高い。

代替エネルギーも伸びており、原発がなくても困らない状態だ。

エネルギーの地産地消を念頭に置きながら、市として何ができるか、広く意見を求め検討したい。

最後に、この間の小樽市の混乱は、小樽市の評判を落としていると思う。

市役所を巡る混乱を収めるのは、しがらみのない候補でなければならない。

現在の小樽市の諸問題に少なからず責任のあった方では極めて難しく、期待もできないと考える。

私は38年間、裁判所生活で官僚組織の仕組みや動かし方は熟知している。

即戦力で働ける候補だと自負している。

市役所の停滞を打破し、新しい市役所の形を、全職員と協力・強調して作り上げたいと考える。